



永井 利明 議員
誠進会

問 今後の小中学校の英語教育は？

答 新学期に学校訪問し意見を聞く

問 現行の小学校外国語活動の問題点は。

答 **教育部長** 学年が進むにつれ、好きと答える児童の割合がやや減少傾向。指導力や研修は不十分と感じる教員が多い。

問 中学校への橋渡しとしての意義は。

答 **教育部長** 児童の英語活動に対する関心が高まっている。

問 32年度施行の次期小学校指導要領において、5・6年生の正規としての英語教育をどのように行うのか。

答 **教育部長** 29年度より小学校英語活動研究の枠を広げ、「弥富市小中連携英語教育研究推進委員会」において、英語教育の充実と質、指導者の指導力向上を図る。

問 33年度施行の次期中学校指導要領において、中1で学習する内容を5・6年生で行うようになるのか。

答 **教育部長** なじみのある表現で友達と質疑応答するなど、発達段階に応じた力を育成する。

問 英語教育において、30年度からの先行実施期間に現場は対応できるのか。

答 **教育部長** 29年度内に十分話し合った上で備えたい。

問 歴史民俗資料館の在り方は？

答 本市の歴史的意義を学ぶ拠点へ

問 歴史民俗資料館の来館者数の推移は。

答 **生涯学習課長** 25年度3576人、26年度4017人、27年度3825人、28年度開館された催しは。

答 **生涯学習課長** 市制10周年記念特別展「弥富金魚150年」を開催。32日間で2千名超が来館。

問 本年1年で市内小学校が社会見学で訪問した数は。

答 **生涯学習課長** 3年生の3学期に6校が来館。

問 新庁舎が完成して、図書館棟に移設した後の歴史民俗資料館をどのように計画しているか。

答 **生涯学習課長** 本市に縁の深い偉人に関わる資料の常設展示や、企画コーナーを展示。歴史的意義を理解するための拠点として計画する。

問 今後の歴史民俗資料館に対する市長の考えは。

答 **市長** 「ふるきをたずねて新しきを知る」場所として有効と考える。どのような資料館にしたいのかアンケートを取っていきたい。



▲歴史民俗資料館（前ヶ須町地内）